

令和4年1月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 令和4年1月25日(金)
午後1時30分から午後2時50分
- 2 場 所 宗像市役所 本館3階 304会議室
- 3 出席委員 委員 石丸 哲史
委員 宮司 葉子
委員 大庭 多美枝
委員 脇田 哲郎
教育長 高宮 史郎
- 4 その他の出席者 教育子ども部長中村時広、教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長徳永淳、教育子ども部主幹指導主事安河内友美、教育政策課長八木直行、教育政策課指導主事川原慎一郎、教育政策課指導主事名切太志、教育政策課指導主事瀧口博章、図書課長恵谷英之、文化スポーツ課長久保謙司、子ども育成課参事賀来元彦、子ども育成課主幹兼子ども育成係長本田康浩、教育政策課政策係長福永貴志、教育政策課政策係主任主事飯野佳代

※傍聴 なし

- 5 (12/22定例) 議事録の承認 《承認》
(1/7臨時) 議事録の承認 《承認》

6 議案

【高宮教育長】本日は、審議事項はございません。

7 協議

① 宗像市学校教育重点アクションプラン2022(案)について

【高宮教育長】続いて、協議事項に入ります。宗像市学校教育重点アクションプラン2022(案)についてです。事務局から説明をお願いします。

【安河内主幹指導主事】教育子ども部の安河内です。今年度は、一人一人の児童生徒に「志をもち、自分の将来や社会の未来を創造する力」の育成を目指し、4つの重点を位置付けて研修支援や事業支援を行ってきました。本日はお手元にダイジェスト版と資料編の

2つをご用意していますのでご覧ください。12月に実施しました児童生徒・教職員アンケートや各種調査、聞き取り、学校訪問等の結果から、今年度の取組の成果と課題をご報告します。そして、そこから明らかになった課題に基づいて次年度の方向性についてご提案します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず一つ目の小中一貫コミュニティ・スクールの推進についてです。今年度は、コミュニティ・スクールの実施に向けた体制が整うよう、全体研修会の実施や学園コーディネーター研修会で各学園の小中一貫コミュニティ・スクールについて情報の共有を行い、すべての学園で足並みをそろえて推進ができるように取り組んでまいりました。今年度の成果としては、体制整備の要件として位置付けておりました7つの指標について、現段階で6つの学園ですでに完了しており、残りの1学園においても3月末には完了予定であると報告を受けております。教職員の小中一貫コミュニティ・スクールの理解についても、8割から9割程度が理解をしていると回答しています。しかしその中で、自校におけるオリジナルのカリキュラムを開発したいがどこから着手したら良いのかわからない、学園運営協議会での協議内容を担任としてどのように教育活動につなげれば良いのかわからない、といった感想が寄せられました。当事者意識の高まりとともに、具体的な関わり方やその内容について、見通しやその方向性を明らかにすることが必要になってきたと考えています。

次に、ICTを活用した教育の充実についてです。今年度は、児童生徒が日常的に活用することを目指して取組を進めてまいりました。特に、研修会で各校のGIGA担当者の育成を図ることにより、担当者が中心となって校内の推進を図ることを支援してまいりました。また、年度半ばにGIGA推進プロジェクトチームを立ち上げ、学校と教育委員会の協議の場を設定したことにより、ソフト面、ハード面での各種環境を整えてきたところです。成果としては、すべての学校で時間、用途、頻度の面から活用が進み、児童生徒も教職員もその価値を実感していることが、アンケートや学校訪問時の状況からうかがえます。また現時点においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が広まっておりますが、登校自粛や学級閉鎖等においてもオンライン授業を実施するなど、緊急時における学びの継続の有効な手段として活用することができています。タブレットを配布して1年弱ではありますが、年度当初に想定した姿には到達したのではないかと考えております。

次に、特別支援教育の充実についてです。今年度は個別の教育支援計画や指導計画を活用し、有効な手立ての検討・改善を目指し取組を行ってきました。特に、年度前期に5回の特別支援教育コーディネーター研修会を開催。また、県重点課題に係る研修内容の周知を行い、特別支援教育コーディネーターによる校内研修や特別支援教育指導員を中心とした学校支援を行ってきました。成果として、特別支援教育コーディネーターを中心とした全体的な意欲の向上や特別支援教育コーディネーターの役割の遂行は充実してきたといえます。また、教職員に対する質問紙の結果から、各種計画の作成や共有・

活用に対する意識が高い結果となり、ある一定程度の成果があったと考えています。一方、課題としては、学校間、教職員間の格差、また特別支援教育コーディネーターから見た教職員の実態と教職員自身の意識の格差など、教職員の実践的指導力にはいまだ課題があると捉えています。実際に、教育支援委員会や管理職の声からも、特別支援学級担任の学級経営や授業づくり、合理的配慮の提供などについては、今後もさらに充実が求められるといったご意見を頂いているところです。

最後に、学力についてです。今年度は、主体的・対話的で深い学びの授業の実現を目指して取組を行ってまいりました。教育委員会としては、学力向上研修会を実施し、今年度の重点の共有や実際の授業参観に基づいた協議を行うとともに、学力層、四部位層に着目した分析と中低位学力層である C 層、D 層への支援の必要性について共有しました。成果としては、全国学力・学習状況調査の結果で大きな伸びが見られたこと、すべての学校での授業改善の推進や学力向上プランへの位置付けがなされ、教職員の意識の高まりが見られた事です。課題としては、授業の実態に関する児童生徒のアンケート結果と教職員の意識との間にずれがあるということです。先ほど、教職員は意識が高まったと回答したことをご説明しましたが、実際にそのような授業がなされているか、という問いに関して、児童生徒の回答と少しずれがあります。また、学力の中低位層の児童生徒の伸びがあまり見られないということ、これも課題であると捉えています。

そこで、今後の捉えについてです。ただいま申し上げました通り、やはり下位層の児童生徒には特性に応じた丁寧な支援が必要になると思われまます。これまで4つの取組として位置付けておりましたが、学力を独立したものと捉えるのではなく目指す姿と位置づけ、他の特別支援教育やICTの活用などを手段として位置付けることにより、有効な学習を設定していくことが必要ではないかと考え、次年度に向けて再整理をしたいと考えているところです。また、一定程度の成果は得られましたが、目標である「志をもち、自分の将来や社会の未来を創造する力」と関連付けて次のような課題があると考えています。まず児童生徒質問紙において、「自分には良いところがあると思いますか」、「将来の夢や目標をもっていますか」、「将来の夢や目標に向かって努力していることがありますか」、「自分の住んでいる地域のために貢献したいと思いますか」、こういった質問に対していまだ3割程度の児童生徒が否定的な回答をしていること。また、一定の学力向上は見られましたが、いまだ C 層 D 層の児童生徒に十分な学力をつけることができていない状況にあるということ。また、不登校をはじめ、不適応を示す児童生徒の数が増加傾向にあること。これらの課題に対応していくことが必要になると思います。そこで次年度の目指す姿として、学力を含んだところで「志をもち、自分の将来や社会の未来を創造する力」として位置づけ、3つの重点に再整理して取組を進めたいと考えています。今後はいま一度、小中一貫教育の理念に立ち返り、学園で9年間の児童生徒の育ちについて共有・検証を図るとともに、学園の課題と目標を明らかにし、家庭や地域と協働して児童生徒を育成していくことが強く求められます。また、一人一人の特性

に基づいた個に応じた支援を充実すること、ICTを活用した教育活動をさらに推進し、児童生徒に情報活用能力を育成していくことです。これらを独立したものではなく、学習指導や教育活動の中で関連付け往還させながら取組を行っていくことにより、真の意味で児童生徒に資質能力が備わっていくものであると考えます。これらの重点は、本市が目指しているインクルーシブ教育や共生社会の実現、そして今後到来するであろう情報化社会に必ずしも反映できるものであると考えております。この3つの重点取組についてはロードマップを作成しています。今年度の課題に応じて、まず小中一貫コミュニティ・スクールにおいては教職員の参画意識を高めるための研修会の実施、ICT教育については量から質への転換、担当者間の情報共有と市全体への波及に係る仕組みづくり、そして、教師間の格差という話をしておりましたが、それぞれの実態やニーズに応じた研修会や個に応じた講座を実施しようと考えています。特別支援教育においては、同じく指導力の向上のために研修を位置けるとともに、個の実態に応じた講座等を充実させ学校を支援してまいりたいと考えています。甚だ簡単ではございますが、以上で説明を終わります。どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

【高宮教育長】ありがとうございます。協議となっておりますので、委員のみなさまが思われたことや疑問点などをどんどん出していただければと思います。最終的には、今日のご意見を踏まえてもう1回練り直して再度提案ということになるかと思っております。それでは、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

【宮 司 委 員】学力向上の件なのですが、C層D層の伸びが少ないというのは、私の知り合いの子もそういう話を聞いて課題をととても感じているところです。前に学校の日などで学校に行った時に聞いたことがあるのですが、先生が教えてくれている、そのみんながいる前でなかなか質問ができない。その時に、その子のためではなかったのですがクラスに補助の先生がいて、分かりにくい子のところに行って教えてくれたそうです。それでその時は分かっていたのですが、その先生が急に来なくなりました。そうなるそこからは分からないし、でも授業を止めてまで聞けなかったということがあったそうです。それで一つお聞きしたいのですが、小学校でも中学校でも、担任や教科担任の補助に入ってくれる先生がいる教科とない教科というのはどのように決めているのですか。

【安河内主幹指導主事】基本的には担任の先生や教科担任が単独で授業を行います。それと、県費で配置しています指導方法工夫改善教員や、市費で配置しております学力向上支援教員、特別支援教育支援員などがそれぞれの学校に在籍しております。その配置については、校長のリーダーシップのもと、学校の実態に応じて決定しております。

【高 宮 教 育 長】学校の実態と学校独自の計画ということになっておりますね。

【宮 司 委 員】わかりました。今回課題の中にこのことが入っていたので、私はそこがすごく気になっているのですね。学校訪問などで授業を見ている、すごく意欲のある子が伸びるのは、当然意欲があって頑張っている、それはそうだと思います。下

位層の子も頑張っているけれどもなかなか結果がでないので、そこをどうにか伸ばしてあげたいとすごく思っています。それをこのように力をいれたいと言ってくくださったのはとてもありがたいと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします

【脇田委員】素晴らしい計画だと思いますし、どこに出しても問題はないと思います。例えば、これを学校に一律やりなさいということですか。提示の仕方の話ですが。この計画を全部やりなさいということなのか、この中から学園内の実態を考えながら校長で協議して、今年はこれでいこうというふうに学校の主体性でやっていくということではちょっと違うと思います。教育委員会事務局として、どのように学校に提示していかうと考えていますか。

【安河内主幹指導主事】まさにここは学校も感じているところだろうと思います。本市としての課題、方向性ということで重点を定めました。そして学校支援の方向性を示したところです。それを全部同じようにバランスよくやりなさいというのは、学園の経営上違うと思いますので、本市が行う支援をぜひ学園の経営に活用していただく、自ずと比重が変わってこようかと思います。

【脇田委員】ぜひそのような方向性をお願いします。管理職、その中でも一番重要なのは校長の主導性だと思います。その辺りが、本当にビジョン、夢を持って、宗像の子どもを育てるんだという意識を持って教育にあたるのであれば、もっともっと、校長が今年はこんなことをやりますとか。やりなさいと言われて動くのとやりますと言って動くのでは全然違いますから。そのような学校との関係をぜひ作っていただければと思います。

【大庭委員】ここ何年かで、何校か学校訪問をさせていただいて感じたのは、やはり学校格差の大きさと、同じ学校の中でも学年格差がこんなに大きいのかということ、そして同じ学年でも学級格差が大きいというのを毎年感じてきました。今日の説明でその解決のために、学園でとか、地域と協働してとか、研修とか、キーワードをいくつか頂いたと思うんですね。それが、その格差の解決につながってほしいなと希望を持ちながらお話を聞かせていただきました。その辺の解決がやはりC層D層の子の伸びにもつながるのではないかと思います。学校の実態が違うのですべて同じ方法では難しいのかもしれませんが、今日説明していただいたことがつながっていけば、宗像市ではC層の子もD層の子も伸びていくのではないかと思います。ご説明ありがとうございました。

【高宮教育長】学校間格差、それから、学年・学級格差。この辺の格差をどう考えていくかということだと思いますが、もう少し事務局から考えなどありますか。

【川原指導主事】特に今年の格差として、進めていくが故にどんどん格差が出ているなと感じています。私もこの2年間の学校訪問を通して、その格差の大きさ、大庭委員のおっしゃる通りだと感じています。私たちは推進者を伸ばしていくことで、各学校の先生方の基盤を育てていきたいというかたちで取り組んでまいりました。ただ、そうす

ることで取り残されていく先生方もいらっしゃるという難しさも感じました。そこで、来年度は講座を設けます。先生方は学びたいと思っているし、学んでほしいと思っている管理職の思いもあるということはこの2年間で実感しましたので、それをもとに各先生方の実態に応じた講座を設け、主体的に申し込めるような状況の中で、先生方の主体性を活かしながら資質、指導力向上に励んでいきたいと考えています。ひいてはそれが学力向上に結び付けてほしいと考えています。

【高宮教育長】前回の校長会で私が説明した元気学力という考えはどこに反映されているのですか。

【川原指導主事】ダイジェスト版の来年度の全体図が示してあるページをご覧ください。学力は資質能力の中に入れていく、目指すものであるとしているのですが、その中でも取組としまして、授業改善、学び運動、集中力を高める、そのようなことが基盤になるからこそ、上に書いてあるような「学びに向かう力・人間性」、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」を働かせるような活動、そしてそういう資質能力を育めるというふうに考えています。真ん中の赤の矢印ですが、小中一貫コミュニティ・スクールという枠組みを通しながら、特別支援教育の充実という観点、ICTを活用した教育の充実という視点を入れて授業を改善していき、しっかり子どもたちの集中力を高めるような取組を進めていきたいと考えています。今実際に実験校として、大島学園と南郷小学校で推進していただこうと取り組んでいるところです。その取組を生かしながら、集中力を高めていくような活動、そしてそれをする中で子どもたちが学習の土台に乗れるような状況づくりをしていき、この3つの資質能力を育てまいりたいと考えています。授業改善、学び運動、集中力を高める、につきましては、この小さいところに表すのか、別枠で表していくのかということ、実はまだ協議が深まっていないところですので、もう少し示していきたいと考えています。

【高宮教育長】小中一貫コミュニティ・スクールはきちんと次年度の案として出ているんですね。それから特別支援教育も出ている、ICTも出ている。学力のことについても、実態や今年取り組んだ内容を示しているのですから、次年度の案として示していただければと思います。

【安河内主幹指導主事】申し訳ありません。私も教育長からご指導いただいていた大事なところをしっかりとご説明できておりませんでした。位置付け方について私どもも協議しているところですが、子どもの姿として目指すところが上段にあるところです。教育長がおっしゃっている3要素、授業改善、子どもの学びに向かう姿勢や集中力、学び運動、これらは取組になると思います。それらの取組に関しましては先ほど川原も申しましたけれども、この赤い矢印の中に入っています。社会に開かれた教育課程やその中で個別最適な学び、協働的な学びの実現、そのほかの活動の中でそれらを位置付けて推進していけたら良いと思っています。どのように記載するかというのは今検討しています。

【高宮教育長】ぜひその案を作ってもらいたいと思います。今、子どもの学力の話

がありましたが、学校格差をなくさないといけないと思っています。宗像市においても、学校間に学力の差があります。先日の校長会で全国学力・学習状況調査は福岡教育事務所の平均を超すことを目標としていると改めて伝えていきます。福岡市周辺の自治体の中で、その平均を超すことを考えてやっていきますよと言っているのですから、もう少しこれに力を入れた形で、すべての学校で学力を高める方策をうたないといけないと思っています。ただ担当者に研修をさせて本当に実現するのかどうか、これはもう少し深く考えないと改善しないと思います。研修会をうちはやりましたよ、あとはあなたたちのせいだよ、どうにかやってくれというのは、教育行政を預かっている部署としては、もう少し指導性を発揮していただきたいと私は考えています。本当は事前にもう少しつめておかないといけないのですが、申し訳ありません。言い訳になりますが、この間コロナ等の対応もあり十分協議ができていないというのが正直なところです。また今日ご意見をいただきながら再度煮詰めていきたいと思っています。

【脇田委員】学校訪問に行った時も教育長は元気学力の話をされたのですが、先ほど私は選択と言いましたが、これは絶対どの学校もしないといけないことですよ。ここはどうやってするのか具体的な方策を出しなさい、ここは選択して良いですよというものがある。でもこれは基盤をつくる場所ですから、絶対どの学校もしないといけない。だから、授業改善のために何をするのか、授業改善というイメージはどう持っているのか、どんな授業をしますよという。例えば対話的な授業をしますよというのであれば、どの授業でも話し合いの場面がある、そういう授業を実現しますよとA校が言ったら、本当にそうになっているかどうかを見に行けば良い、相談すれば良いわけです。そういう具体的な策が出てくるところと、あとは、校長先生の裁量でこれはやりたいというところがあっても良いのかなと思いました。教育長の思いが実現するような方向で、そこは策を練らないといけないと思います。

【大庭委員】各学校の実態を知るのに、学校訪問が一番有効な手立てではないかと思っています。今年度から全校に行っているのだから、それは宗像市の実態を知るのにとっても有効かなと思っていました。そして行った後に、学校の課題について教育委員会で話し合っていて、その学校が良い方向に行くためのアドバイスの仕方などを検討していただいていると思うのですが、各学校実態が違うので方法も違うと思いますけれども、学校訪問が課題解決につながっていけば一つの方法として良いんじゃないかと個人的に思っていました。

【石丸委員】繰り返しになるかもしれませんが、まず確認です。令和3年度の総括をしっかりとされていて、そこから課題が明確にされ、令和4年度にどうもっていくかという方向性が明らかになっています。資料の重点の4、3、2、1と明確になって、なるほどそれで令和4年度に行くんだと思って、令和4年度の推進計画を見ますと、重点の4と2と3があるのですが、1の学力というのがない。これは推進計画にどう位置付けられるのでしょうか。恐らく理由があり、単に漏らしたとか抜かしたとかではない

と思うんですが。市民目線で言うと、令和3年度で4つを総括してきながら、令和4年度の方向性で明示しているにもかかわらず、推進計画にあらわれていないというのは体裁上いかなものかと思います。体裁上のことですのでそれ以上のことはないのですが。ICTを活用した教育はGIGAスクール構想が始まっており、国の要請や現場からの声、ノウハウというのがどんどん出てきておりますので、ある意味発展途上ということで様々なパターンが許されると思うのですが、小中一貫コミュニティ・スクールや特別支援教育、学力向上というのは同じことの繰り返しでは恐らく許されないと思います。小中一貫コミュニティ・スクールの推進についてはご指摘のとおりだと思います。教職員への参画意識。学園運営協議会が昼間に実施されている場合、恐らく先生方は何をしているのか分からないんですね。地域や保護者の方が集まって何かしているのかなと。恐らくそこで無関心というのが出てくるわけで、その無関心を払拭するために研修会開催かというところは私にはそうではないと思います。例えば教職員の方に学園運営協議会に一部入ってもらってどんなものかというのを体験してもらおう。全員入ると学校が回らないので。そういうところから参画意識がでてくるのではないかと思います。そこで小中一貫コミュニティ・スクールや特別支援教育というのを見ますと、非常に研修会というのが目立ちます。研修会で本当に参画意識が高まるのかというのを感じます。そこで情報とかノウハウは収集できると思いますが、研修会が終わった後の先生方の姿に参画意識の高揚というのが見て取れるのかというのと、私の偏見かもしれませんがさほど感じないところもあります。そういう意味では、大きく且つ乱暴な言い方かもしれませんが、令和の日本型学校教育という以上は、研修も昭和の研修ではなくて令和の研修と言うものを模索していただければと思います。では令和の研修とはどういうものかというのと、参画意識を高めるための手立てがしっかりしているということだと思います。そこで見てみますと、これは教育委員会のスタンスもしれませんが、何か上からのような感じがします。というのも、学力のところ、これは分析上正しいことかもしれませんが、C層D層と層化する。層にすること自体が、結局まだ上から見ているんですね。常にこれまでは平均、平均と言っていましたよね。県平均との乖離。平均と平均を比べてそこにどれだけ差があるか、これ自体が結局子ども一人一人を見ない。統計学的に言うとこれは集計化と言うのですけれども、そういったことになってしまいます。これは大きな傾向性は見られるのですが、一方で個別が見えなくなってしまう。一長一短あるわけです。集計化と非集計化というのがあって、この非集計化というのが個別を見ていくということなんですね。これは現場目線で言うと、学校でこういうデータを見て平均化とか集計化していくと、どうしてこういう数字が出てくるのかというのと、あのクラスはここでついて行っていないから結果としてこうなるんだなど。それができることが非常に重要で、じゃあどうすれば良いのかという発想に至るのではないかと思います。ですから、こういった学力向上で重要なのは、こういった統計学的な分析も大変重要ですが、常に場面想定というか、どうしてこういうことが起きるのだろうかということを常に考えて、

一人一人が見えるような非集計化レベルでも見ていかないといけないと思います。層化していくことと同時に、平均と併せて常に見ないといけないのは、いわゆる偏差ですよ。標準偏差。私も専門ではないので何とも言えませんが、ばらつきがない、低い層での子どもばかりのクラスの学級経営と、A層とD層、つまりばらつきが非常に大きいクラスの学級経営と、どちらが大変かという私は後者じゃないかと思います。でも上の層が引っ張ってくれるから、あたかも平均で言うと上の方に見えるけれども、どちらの方が学級経営上大変であるか、そういったところをしっかりと分析した上で教員の配置とか様々な手立てを講じることが重要ではないかと思うんですね。推進計画なので個別のことをどんどん書く必要はありませんが、いずれにしてももう少しつめていただきたい部分があります。バックとして令和の日本型研修システムというものを私も考えてまいりますし、みなさんにも考えていただきたいと思います。以上です。

【高宮教育長】ありがとうございました。ほかにご質問等ありませんでしょうか。

【各委員】特にありません。

【高宮教育長】それでは、本日頂いた意見を参考にさせていただきながらまた改善していきたいと思います。以上で協議を終わります。

8 報告

【市民協働環境部】

<文化スポーツ課>

- 1 城山中学校とグローバルアリーナとの連携イベント実施報告
- 2 新春健康ウォーキング宗像大会実施報告
- 3 2022年宗像市成人式実施報告

【教育子ども部】

<図書課>

- 1 小学生読書リーダー2学期活動報告
- 2 中学生読書サポーター活動報告
- 3 図書館を使った調べる学習コンクール「全国審査」結果報告
- 4 宗像市民図書館全館の臨時休刊について

<子ども育成課>

- 1 令和3年度家庭教育学級「家庭で効果的に身につける基本的な生活習慣」の開催について

<教育政策課>

- 1 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
- 2 宗像地区実践研究表彰式及び宗像地区教育研究所員研究発表会について
- 3 宗像市立学校における新型コロナウイルス感染症感染状況等について

- 4 行政報告について
- 5 後援報告について

9 イベント周知

< 図書課 >

- 1 河東地区コミュニティ・センター文化祭共催事業

【高宮教育長】次回は、令和4年2月22日火曜日の午前10時30分から202会議室にて定例教育委員会を開催します。

令和 4 年 2 月 22 日

石丸 哲史

高宮史郎